

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教173年
5月号

世紀の祭典 厳かに！

— 道の台としての歩み誓いあう —

天理教婦人会 創立100周年記念 第92回総会開催

5月2日付、天理時報で既報の通り去る4月19日、婦人会創立100周年記念第92回総会が親里で開催され全国各地から12万人余の会員が参集、真柱様のお言葉、中山はるえ婦人会長のあいさつを受け「創立の元一日を振り返り道の台としての歩み」を誓いあった。

笠岡支部の歩み

笠岡支部(上原きよ枝支部長)の記念総会に向けての歩みについて述べたいと思います。

平成19年に婦人会本部より成人目標が打ち出されそれを受けて同支部では、報恩感謝の気持ちを込めて日々の積立てを始め、更に10月20-11月30日の別席月間では大教会の全体行事としての別席団参に合わせて参加しました。

平成20年度は5月22日、委員・委員長講習会を開催、その中で大教会長様は「婦人は家庭、教会の台として成って来ることを楽しんで通るように」とお諭し下さいました。婦人会は「人間が始め掛けたのやない。神が始めさせたのや」と仰せ頂中、全委員部がそれぞれにふさわしい道の台としての動きを始めました。

平成21年に入り1月末日、全委員長研修会を開催。その後、決起の集いに向けて1人でも多くの会員の参加を願い、2月-6月にかけて委員2人が1組となり全委員部を巡回しました。決起の集いには多数の参加者のご守護を頂きました。

3年目の本年、平成22年は1月28日、婦人会創立日に合わせて支部長より全委員部にメッセージが發布され、それぞれの委員部で「おさしづと婦人会」を拝読、おつとめ、ねり合い等つとめ、3月28日には別席団参を実施しました。

4月18日には、教祖212回目のご誕生祭がつとめられ、夕勤め後から、東・西・南右北側・真南通りの4会場で開催された「よろこび広場」にはおよそ150の模擬店が軒を連ね賑わいました。翌19日の記念総会は大勢の参拝者で盛大に式典が執り行われました。

(常任委員 高田・内海)

別席に向けての取り組み

婦人会本部より「1人の会員が1人の別席者を御守護頂きましょう」とのスローガンが打ち出され、笠岡支部では別席月間を3回に渡って定めました。

同支部では「あきらめずに、細やかに、身近なところから声かけをしましょう」と早速、別席団参の案内チラシを作成、昨年3月末迄に全委員部に配布しました。

昨年10月25日には大型バス1台、今年3月28日にはマイクロバス1台の別席者の御守護を頂きました。

また、総会当日はもとより各々の委員部で定めた別席日に目標を定め今日迄歩んできました。今年10月20-11月30日迄が3回目の別席月間となっております。

記念総会で婦人会長様から「にをいがけ・おたすけが毎日の御用となるように」とお示し下さいました。婦人会員全員こぞって、なつてもならいでも精一杯努めさせて頂く決意を心新たにしました。

(別席係担当者)

感謝でいっぱい

女子青年のつどい

晴れやかな空の下、黒門の前でドキドキしながら、みんなを待っていました。はじめは少人数で、一体どれくらい集まってくれるか不安もありましたが、二十名ほどの方が時間を割いて集まって下さり、勇んで会場へ向かうことができました。

女子青年では、この百周年の旬に向けて、毎月、月次祭後にバザーを開き、その収入を全て御供えとさせて頂いたり、別席月間の団参に向け全女子青年に手書きでハガキを送ってお誘いをしたり、又、別席者をご守護頂く為に毎月の例会でにをいかけに出たり、と、声かけに力を入れ、委員長を中心に活動させて頂きました。

つどいの中で婦人会長様は、「内面から出る輝き、美しさ」を得るよう教えを実行し、素敵な女性になって頂くことを期待しています。とメッセージを下さいました。そうやっていけるように、ホップステップジャンプの、ジャンプの時代である今を頑張っていこうと思います！

(女子青年委員長 上原 宏 恵)

午後1時半に詰所を出発。

午後2時に黒門西付近に笠岡につながる女子青年が20余名集まって、女子青年の集いに参加させて頂きました。メイン会場である天理大学柚之内第一体育館は熱気にあふれあつという間に会場がいっぱいになりました。

つどい開始直前には2階の方で人の波(ウェーブ)と歓声がおこりました。婦人会長様のごあいさつに始まりそれにお答するお礼のことは、テーマソング「すてきなあなたに」斉唱、マーチングパフォーマンス、ダンスパフォーマンス、スライドショーなど、趣向を凝らされた充実したプログラムのもと、あつという間の1時間15分で、最後は、天理高等学校総合体育館の一体感と感激のフィナーレをむかえることができました。

婦人会長様が女子青年に対する思いを諄々とき間をかけてお話し下さいました。中学生、高校生には難しい部分もあったようですが、何か心に残ったものをおみやげとして持ち帰り、笠岡につながる女子青年として今しかできないにをいかけに励んでもらいたいと思います。

(女子青年担当者)

女子青年のつどいに参加して

4/18午後おちばで開催され、1万人余りの参加者の中には、はるばる国内外からも沢山の方が参加されました。

婦人会長様のお話を聞かせて頂き、本当の女性らしさを身に付けて素敵な女性になれるように女子青年の期間中に『道の台』の基礎をつくらせて頂きたいと思いました。真っ白な気持ちにし、一から色々な事を吸収したいです。この度、委員にならせて頂いたので女子青年活動にも力を入れていきたいと思っています。

(稲倉分教会 北川 雅子)

4月17日からおちばへ帰らせて頂き、おちばの理を体一杯頂いて帰ってきました。18日の午後には女子青年の集いに参加し、海外の方の盛り上がりで、会場は一体となって婦人会長様のお話を聞かせて頂きました。お話の中で「道の台とならせて頂くための基礎作りの時が女子青年の期間で、活動を通して素敵な女性になることを期待している」と仰っておられました。この親の声、旬の声に少しでも沿えるよう、いつも笑顔で与えられた事を一生懸命つとめたいと思います。

(稲倉分教会 北川 祥江)





よろこび広場①
笠岡店舗係として

よろこび広場の模擬店については、一年余り前から係を決め、何を出品するかを委員会で計ると、最初は食べ物を作って売る模擬店と、既にできている物売る物産店の両方をがんばってしよう、

という意見でした。しかしその後、婦人会本部の方で企画を進められ内容が具体化するに従って、参加予想人数五万人の客に対して夜間二時間の開店という条件の厳しさが判明し、とにかくシンプルに、いかに短時間で確実に多く売るか、ということが課題となりました。本部での担当者を集めての説明会は二回開かれました。一回目は衛生面での注意に重点がおかれましたが、担当者達、特に模擬店の係の人達の熱意には圧倒されました。会場での喫食はできないと云われても郷土料理の汁物をあきらめず、どんな工夫をして出したのでしょうか。きっと各々に苦心談が有ったでしょう。私達は物産に限定して、美之郷の委員部長のお世話で三種類の和菓子を二個ずつ一パックに詰め合わせて販売することにしました。売り子の揃いのハッピー作りで、終日ミシンやアイロンで協力して下さった方々、看板作りでがんばった芳井の委員長、当日すべて好評の声をききました。

第二回目の説明会では、会場の混乱を避けるため物品の搬入搬出について等、いよいよ現実が近くなってきたという緊張感が漂っていました。私自身は体調を崩して無事に務まるだろうかという不安の日々でした。婦人会創立百周年を大きな目標に歩んできた三年間の最後の行事が無事に成功して、皆で喜び合うことができれば、それは神様からの褒美だともいえます。四月に入って



の準備と打ち合わせ、当日朝からの物品搬入、看板とりつけ、そして教祖御誕生祭のおつとめを神苑近くの会場で遙拝させて頂き、成功を確信しました。前日の雨も上がりこの上ない天気の御守護が何より有難くこれで万事OKという気分でした。会場総責任者の支部長様には一方ならず御心配をおかけしましたが。

(陶山委員部長 上原 順子)

よろこび広場②
前夜

「どーん！」と夜空に花火が打ち上げられると、その美しさに酔う暇もなく、すでに店舗の前にはピンクのチケットを握りしめた大勢の人の波が押し寄せてきました。

事前に女子青年は売り子に、後の婦人会の者は呼び込み、品出しと役割りを決めていましたが、その役割分担も虚しく迫り来る人の波に、気がつけば全員が売り子をしている状態で、我が笠岡が出品する「和菓子」(なごみがし)を求め、我も我もと手を伸ばし、中には品を渡されるのを待ちきれず、チケットをその場に置いて自分で持って行ってしまふ人もおられました。また海外からの婦参者も沢山来られ、対応する私たちも「謝謝!」「カムサハムンダ!」また片言の英語を駆使し、てんやわんやの内に、あれよあれよと言う間に用意した千五百個の和菓子が売り切れてしまいました。その間わずかに四十三分。店舗の前に貼られた「完売」の札を見上げ、無事完売出来た事に感謝一杯の気持ちで「ああ、終わったな」と胸をなで下ろしたのは私だけでは無かったと思います。

この成功の陰には、大勢の方の協力があった事は言うまでもありません。

商品の「和菓子」こそ業者からの仕入れですが、バックに貼るシールのデザインや、シール作成、そのシールをバックに貼る作業、看板作成、売り子の衣装など実は大勢の方の真実が結集され、今回の大盛況へと結びついたのだと思います。

当日は早朝より準備にかかりましたが、午前中はハプニングが続出し、午後からの準備や、本番に何か予期せぬ事が起きるのでは・・・と不安になりました。

しかしながら「これはきっと、神様が落ち着い



て慎重に行動せよと仰っているのだ。」と、お互いに確認し、先案じせず勇んでその後の準備に掛からせて頂く事が出来ました。

店舗の留守番を兼ねつつ、ゆっくりとご誕生祭を参拝させて頂き、教祖のお誕生日をお祝いさせて頂くと共に、「今夜、無事にお連れ通り下さいませ様に」とお願いをさせて頂きました。勇み心もいっばいに神様に凭れる姿をお受け取り頂いたのか、バックにお菓子を詰める作業も一つの失敗もする事なく終えさせて頂き、また、よろこび広場本番も、先に申しました様に段取り通りとはいきませんでした。大きなトラブルもなく無事に完売させて頂く事が出来ました。

九時、宴の終焉を告げる花火が親里の夜空に色とりどりの花を咲かせました。体はくたくたなのに、気持ちは明日の総会に向けてよろこびいっぱい。この花火が長かった今日一日を労ってくれてるようでした。

百周年のお打ち出しがあつてから、より一層、それぞれの婦人会員は道の台としての成人の道を歩んで来られたと思います。みんなに喜んで帰ってもらいたいという、親心でよろこび広場の開催だったと思いますが、その大切なご用の一端を担わせて頂けたことは、私にとつても意義深いものでした。本当に有り難うございました。

(上下委員長 山野 な つ)

「笠岡海外帰参者の懇親会」
4月18日 開催



大教会長様ご挨拶



北川氏によるブラジルの道の説明



台湾の人達による歌の披露



全員で記念撮影

笠岡からおぢばへの車での旅程は一番の近道で約3時間半を要する。さらに渋滞に巻き込まれて6, 7時間にも及ぶとどっと疲れが増す。国内でもそうなら、海外からなら尚更大変な道のりである。中にはおぢばに帰れたりおやさまにお会い出来るのが経済的や地理的な理由から一生に一度しか帰れない人もおられるだろう。我々はおぢばへ帰れる喜びをどれだけ大きく感じられるかを忘れずにいたいと思う。この度の教祖誕生祭と婦人会創立百周年記念総会に合わせて、海外から帰参した人の数は、おぢば神苑に参拝された方なら

その多さにびっくりされた事だろう。笠岡に繋がる海外からの帰参者も今年、台湾から13名、ブラジル関係が19名、アメリカから3名が帰って来られた。本部で開催される「海外帰参者の集い」が20, 21日と予定されていたが、笠岡の者は大教会の祭典に近いこともあって参加出来ないため、大教会長様、奥様より「笠岡に繋がる海外からの人達に何か食事会でも」という親心から、海外部で開催させて頂いたのが18日の昼食を兼ねての「笠岡海外帰参者の懇親会」であった。

おやさま誕生祭式典後、2時より詰所食堂に集まり、大教会長様と共にカレーにオードブルや飲み物を足して会食した。

会長様のお話、海外部長の挨拶の後、乾杯をし

て食事を始め、それぞれの国の伝道の歴史や流れを聞き、海外部員また海外からの全員の自己紹介をそれぞれの通訳を通して進んだ。続いてハンドベルや、日本の歌を披露した後、台湾やブラジルの人達から、それぞれの国の歌や日本語の歌を披露され、最後に全員で「親神様」を合唱して約1時間半を楽しく過ごした。

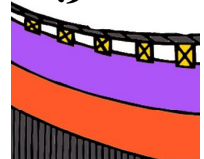
海外からおぢばや大教会は遠いけれど、笠岡に繋がっている者達同士の交流が出来、意志の疎通や教友の存在の心強さを深め、これからもそういった絆をお互いが大切にしていくことを大いに期待している。

(海外部長 上原志郎)



海外部

広島にいがけ



従来の海外部の活動に新たに加わったもの、それは日本にきている外国の人たちへの「にいがけ」です。

春と秋の年に2回行おうということになり、3月23日(火)、初めて実施されました。場所は広島平和公園。参加者は部員4名、乳児1名。大教会を午前8時30分に車で出発し、現地には10時30分頃に到着。雨が降る中のスタートとなりました。

まず「平和の鐘」の東側でおちばの方を向き、世界平和を祈念しつつ「よろづよ八首」を踊らせていただきました。警備の人から注意されることもなく、そのときだけは雨も小降りになったように感じました。それから約1時間、それぞれ別れて「英文パンフレット」を配布しました。

アメリカ・カナダは勿論、ドイツ・フランスといったヨーロッパ、また中国・韓国等のアジアの国々から平日にもかかわらず多くの人々が広島を訪れていることには驚かされました。日本人同様、彼らの多くがパンフレットを受け取ってはくれませんでした。戸別訪問によってよりも路上や公園、駅、スーパーなど、街でたまたま出会った人から「にいがけ」がなかった例が一番多いという最近

の傾向に励まされながら、部員4人で合わせて約100部ほどのパンフレットを配布させていただきました。実際に動いてみると幾つかの問題点や課題も見えてきました。

その後、国道54号線・中電前近くにある「陽気ラーメン」で昼食をとり、3時頃には大教会へ戻りました。

おさしづに「蒔かん種は生えん」(明治36年5月20日)とあります。いつ生えてくるか分からない種ですが、「にいがけは、すぐの結果ではなく、海外に繋がる理づくりになるように」との部長の思いに沿って今後もつとめさせていただきたいと思えます。(海外部員 吉岡 誠一郎)

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌五月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「種」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されましたので転載させていただきます。おでとうございます。

地位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

眞実は末代続く道の種

▼表紙の絵

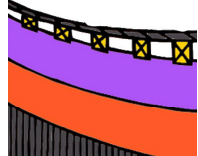
神邊分教会よふぼく 小坂道和さん



春の学生

おぢばがえり

直属アワー



立教173年春の学生おぢばがえりが3月28日開催されました。毎年恒例の行事で今年は参加者数5306人(総数6585人)。

笠岡大教会に繋がる学生の参加者は28人(学担6人)でした。

式典で真柱様は「自らが親神様・教祖のお目になうような通り方を心掛けて、道の子らしいなるほどの人を目指して歩んでもらいたい」とお言葉をくださいました。

続いて行われた「直属アワー」では、ゲームでウォーミングアップをし、その後大教会長様のお話を伺い、自己紹介をしながら245北京の豪華弁当を食べ、日曜日に多くの観光客でこった返す東大寺周辺へ出かけ、グループに分かれてにいがけのチラシを配ってもらいました。みんなとてもまじめに取り組んでくれました。



おぢば管内の

学生のつどい



4月25日(日)詰所で「おぢば管内の学生の集い」

が開催されました。学生の参加者は5名(学担4名)。

大教会長様は、おぢばの学校で学べることの素晴らしさをお話して下さい、学生からは女子寮で



の生活の大変さを教えてもらいました。その後チャイニーズレストランで昼食をいただきました。さて現在学生担当委員会が把握しているおぢば管内の学生は31名です。内訳は教校学園高校8名、

天理高校1部6名、Ⅱ部3名、天理大学10名、医
学技術学校2名、看護学院1名、専修科1名です。
このうち1年生は12名もいます。こうした機会を
利用して、同じときにおぢばで学ぶ学生同士の親
睦を深めていただきたいと切に願います。

(学生担当委員長 吉岡 誠一郎)



全教一斉

ひのきしんデー



「喜びと勇み心を一手ひとつ」を

合い言葉に

前夜から明け方にかけて強い雨を布団の中でウトしながら聞いていました。「全教一斉ひのきしんデーなのに中止かな？」との思いでした。それが不思議に朝、6時には雨が上がり陽が差しってきました！ あぁ有り難いなあ、ひのきしんが出来る。今まで私の記憶では明石で全教一斉ひのきしんが中止になったのは一度しかありません。私は皆勤ですよ。天理教明石支部では地域別に二見人工島、石ヶ谷公園、大蔵海岸の3会場に分かれてひのきしんを行います。私の地区は毎年大蔵海岸に行きます。この大蔵海岸は遠く正面に淡路島、東に明石大橋を臨んで広い砂浜が大きく広が

り一年を通じて住民の憩いの場になっています。散歩する人、砂浜で若い人達がバレーもしています。子ども広場には砂場、滑り台、土管くぐり等の遊び道具があってお母さん達が小さい子を沢山遊ばせています。夏は海水浴場になり沢山の出入りになります。また広場の横には海洋冒険家堀江謙一氏のヨット(業務用のビア樽で造った)「マーメイドⅡ号」が公園に恒久展示されています。正に絶好の景勝地、遊び場、憩いの場なんです。ここを家族、教友と勇んでひのきしん出来る幸せを心から感じました。私と家内、娘、他二人と参加しました。大蔵海岸は参加者140名参加となりました。雨はあがったのですが、生憎風が強くゴミ袋がパタパタして大変でしたがその中を精一杯、草抜きにゴミ拾いに頑張りました。9時〜11時までの2時間はあつという間に過ぎ、今年も家族と教友と共に喜びと勇み心を感じさせて頂くことが出来ましてこんなに有り難いことは有りませんでした。

(明石市分教会 杉原博之)

今年も全教一斉ひのきしんデーの日がやってきました。

爽やかな晴天の御守護の下、私達、金光・鴨方地区の教友は、用木・少年会員・一般の方を含め、総勢九十名の参加者の中、日本一の天文台を誇る遥照山で草刈りを主体に、道路・駐車場の溝掃除

などのひのきしんをさせて頂きました。形の上では、同じ場所と同じ作業内容、それに参加される人もほとんどが、例年と同じ顔ぶれだった様に思いますが、昨年から変わった事が一つあります。それは浅口市の職員が視察に来られる様になった事です。

以前は五月十八日を全教の統一行事としてひのきしんの日と定めていましたが、一時、五月の日曜日に変更され、遥照山では、天理教以外にも、他の団体のボランティアも入っていた様で、市の方では、何処の団体が、何時されていたのか把握されていなかった様です。それが、四月二十九日と定着してからは、事前に市役所の方に挨拶に行く事にし、昭和の日が、天理教の全教一斉ひのきしんデーの日と年間行事予定表に入れて下さる事になりました。それからは、シルバーセンターの方々の仕事日や、他の団体のボランティアの日取りの調整などを初め、ひのきしんに必要なものの準備や場所の指定もして下さり、始まりに当たり、挨拶の中で感謝も述べて頂ける様になりました。ひのきしん中は、その様子を写真に収め、それを市役所の方に報告するという事で、私達お道の用木は、これからひのきしんデーという事に関わらず、この活動が地方の日々の暮らしの中に広く根づいてゆく様奮起してゆかなければと思っています。

昭和七年に、全教のひのきしんデーが発足され、戦争などの時代の経緯があり、現在の体制に定着したという事を考えて見れば、私の親の生まれた頃から続いているこの活動が、長く次の世代に続いて貰える様、今の私達が、家族の絆をしっかりと見つめ直し、天理教の代名詞とも言えるひのきしんを地域の中から地道に映してゆく事の大切さを教会長になって強く感じる様になりました。

(陽備分教会 虫明立生)

談話室



大節を越えて

多古浦分教会 小澤 操

平成19年7月6日の事でした。

夜九時半頃だったでしょうか、武道教室の生徒さんから、先生が店の内で倒れていますと電話をもらいすぐ店の方へ車でかけつけました。私が着くまで救急車を手配してもらい近くの病院へ運ばれました。

その時点で本人はすぐにも退院出来る様に思っ

たようです。脳出血でした。一週間後には脳梗塞に変わりました。意識がなくドクンドクンと音が聞こえそうなの姿にもう元にもどる事は出来ない気がしました。なぜなら主人の親戚に三人も同じ病気の人がいましたから。

何とか助かって欲しい助けて欲しいと願って、教会の奥さんにお助けをお願いして病院の方へ通ってもらいました。集中治療室から個室へ移り、意識ももどって話が出来た様になったから倒れる時に不思議な事が有ったようです。

自分でも倒れる前に身体の変調に気づいたようで店内をペットボトルを持ったままグルグル回っていたようです。狭い店の中でそのまま倒れたらどこかに頭を打ちつけていたと思います。不思議と言いますのは誰も居ないはずの店の中に倒れる時、身体も腕も細い女性が居て倒れるのを助けてくれたと言うのです。でも、店の中は本人が道場へ行く準備をする為に内側から全部鍵をかけてましたから誰も居るはずなのです。

教会の奥さんに話したら、教祖だ、教祖が助けて下さったのよと(鳥肌が立ちました)言われびっくりしました。

リハビリが出来るまで回復していったのですが2つの病院を行き来するうちに何度か脳出血をくりかえし、今では寝たきりの状態です。生きてさえいてくれたらありがたいと思ってます。結婚してすぐに心臓の手術、次は大腸ガンと次から次と主人の身体に見せられる事に最初はどうして、何で、と悩みました。

これは成人の鈍い私に対する親神様、教祖からの急き込まれている姿と受けとめさしてもらえる様に、ごく最近気づきました。

本当に申し訳ない位、鈍いのです。行動に移す事が遅いのです。でもお道は本当にありがたいと思わしてもらえる事が多くて年に一度は必ずおぢばへ帰らせてもらってます。本当にありがとうございます。

◆実行委員会より 報告とご案内

(実行委員 上原)

創立120周年記念祭は立教174年11月30日に挙行されます。

丁度水曜日で一体どれほどの人が集まって下さるのか、見当がつかかねるのですが、今までの奉告祭・記念祭の参加人員を調べてみました。

立教134年(昭和46年)11月11日(木)	
創立80周年並に移転建築落成奉告祭	7000人余
立教144年(昭和56年)11月11日(水)	
創立90周年記念祭	4000人
立教154年(平成3年)11月21日(木)	
創立100周年記念祭(月次祭に併せて執行)	2400人
立教157年(平成6年)11月30日(水)	
笠岡布教開始110周年記念祭	1800人
立教160年(平成9年)2月22日(土)	
大教会神殿屋根葺替奉告祭	1300人
立教164年(平成13年)11月29日(木)	
創立110周年記念祭	2500人

こうしてみると、記念祭・奉告祭は曜日に関係なく勤められていて、信者さん方もそのつもりで帰参、参集して下さっているように思案いたします。

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを樂しみに 親心一杯に天然自然のお働きを通して 身体の自由を御守護下され 又身上・事情を通して心の成人をお促し下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は成って来るのは常に救けたいとの親心の現われと悟り 見るのも聞くのも我がいんねんの姿と反省しつつ 日々は親神様教祖の親心に凭れ喜びと感謝の心一杯に朝夕に御礼申し上げて たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております 中でも今月十八日の教祖二百十二回目の御誕生祭と十九日の婦人会創立百周年記念の総会には国内はもとより 遠く海外からも帰参させて頂き 共にお祝いを申し上げ 喜びを分かち合わせて頂きました 誠に有難うございました

その中 四月の月次祭を執り行う日柄に当たり 婦人会総会の興奮冷めやらぬまま 慌ただしい中にも今日の日を樂しみに 部内教会長よぶく信者寄り集ってくれましたので 只今からおつとめ奉仕人一同 感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りつとめてをどりをつとめさせて頂きます 皆の勇み心の真実を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて道の子供達の勇み心とは裏腹に 世情の心は世界的な経済不安や自然災害等でますます 混迷を深め 苦しみにあえいでいます 加えて多くの人はそれを招いているのは心得違いの道があるからという事を知らずにいます 今真柱様から事ある毎に「家族団欒の姿を世の人々に写していくのがよぶく」の使命」とお聞かせ頂きます 道に繋がるお互い 陽気ぐらし建設の為のよぶくである事の意識を更に高め 創立百二十周年記念祭に向け 日々の喜び感謝の心を深めたすけ合いの喜びを味わい 一人でも多くの人にその喜びを広げて行けるよう 力の限りに勤めさせて頂く所存でございます

又二十九日の全教一斉ひのきしんデーには よぶく同志互いに声をかけ合い ひのきしんに励んで共にかしものかりものの喜びを分かち合い 一列兄弟の理を味わいたく存じます

何卒親神様には 我が身 我が家の都合を置いてでもたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 親心が次から次へと伝わり よろづ互いに救け合って 一日も早く陽気ぐらしの世の状が実現しますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

|| 辞 令 ||

立教173年4月21日付

◎登 用

理 事 岡 本 久 善
" 上 原 繁 道

|| 教会指令 ||

◎任命願・神殿建築願

木津和 分教会

*前任 丸 山 勤

*新任 丸 山 正 人

☆奉告祭 立教173年5月2日

立教173年3月26日承認

◎本部食堂ひのきしん

自 立教173年5月1日

至 立教173年5月15日

高見島 瀬 良 茂



よりみち

ゴールデンウィークも真ただ中である。五月に入り普段あまり連絡をしてこない義兄から一本の電話が入った。「暇にしようか?」「何?」「と言うと、「明日、焼肉でもせんか?」というのである。次の日私は、人との約束があつて「明後日は?」「と尋ねると「じゃあ、そうしよう」という事になった。私は近くにいる兄弟に連絡を取り、急なことだったので、仕事や用事で来れない者を除いて、大人五人と子供七人で近くの海でバーベキューをする事になった。まだ泳ぐには水温が低く、声を出した義兄は昼からビールを飲めるのが目的の様である。当日、私は寄島で以前、小粒のサザエを買ったのを思い出し、店に行ったが市場が休みで、仕入れが出来ないから置いていないという事だった。そこでお歳暮で良く利用していたカキ市場に行き、開いている店で尋ねると今はカキの種付けに忙しく、正しくどの店

もその作業に追われている。近くにお婆さんに「まだカキ有る?」と聞くと「まだ有るよ」と言うので、ラッキーと思いつつ、十キロ程貰うことにした。お婆さんは話し好きな様で、私がか家で天理教をしていると言つと「笠岡のUさんが良く利用してくれて天理にも誘つてくれるんですよ。でも電話をしてもなかなか留守が多くて」と言うので「今度会ったら話しておくから」と言つて、名刺を頂き、支払いを済ませ、海岸へ向かった。すぐに炭火に火を熾しカキと肉と掘りたてのタケノコ等を焼き、昼食の準備に取りかかった。五月晴れというに相応しい温かい天気、アサリを掘ったり、釣りをしたり、小さい子は、砂遊びで顔から服からそれはそれは大変な姿である。こうして楽しい時も過ぎ、後片付けをして、元氣よく皆、それぞれの家路についた。私は教会に帰って夕づとめをし乍ら、ふと今日の様な家族団欒の姿が、このお道の中、教会の中で、上手く溶け込んで貰える様、明るくつとめなければと思ひ、今日一日を親神様・教祖にお礼申し上げたのである。

(む)